



横河電機株式会社

2024年3月期 第1四半期決算説明会

2023年8月8日

イベント概要

[企業名]	横河電機株式会社
[企業 ID]	6841
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2024 年 3 月期 第 1 四半期決算説明会
[決算期]	2023 年度 第 1 四半期
[日程]	2023 年 8 月 8 日
[ページ数]	17
[時間]	17:30 – 18:09 (合計：39 分、登壇：12 分、質疑応答：27 分)
[開催場所]	インターネット配信
[登壇者]	1 名 執行役員 経理財務本部長 中嶋 倫子 (以下、中嶋)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



ポイント

■第1四半期実績：増収増益

- ・サマリー： 受注は、増加
売上も、長らく続いたCOVID-19の影響からの回復などにより増加
営業利益は、売上の増加に伴う粗利増などにより増益
四半期純利益は、投資有価証券売却などにより増益
- ・セグメント別： 制御 増収増益 (除・為替影響：受注+2.0%、売上+21.9%)
測定器 増収増益
新事業他 前年並み
- ・地域別： インド、東南アジア、欧州、北米が好調
- ・サブセグメント別： Energy & Sustainability、Lifeが好調
- ・業種別： Downstreamが好調

■通期業績予想：修正なし(為替レート：USD130円、EUR135円)

中嶋：経理財務本部長の中嶋です。第1四半期の決算のポイントについて、ご説明申し上げます。
資料の4ページに決算のポイントを記載しています。こちらの内容を次のページ以降でご説明させていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

決算サマリー（前年同期比）

- ◆受注・売上 : 受注は**増加**（除・為替影響+5億円、+0.4%）
売上も長らく続いたCOVID-19の影響からの回復などにより**増加**（除・為替影響+218億、+23.2%）
- ◆営業利益 : 売上の増加に伴う粗利増などにより**増益**（除・為替影響+106億円）
- ◆四半期純利益 : 投資有価証券の売却などにより**増益**（除・為替影響+223億円）

（億円）

	FY22_1Q	FY23_1Q	差異	増減率	為替影響
受注高	1,343	1,383	+40	+3.0%	+35
売上高	940	1,186	+246	+26.2%	+28
営業利益	14	131	+117	+842.1%	+11
ROS(%)	1.5	11.0	+9.5pt	-	-
経常利益	26	150	+124	+479.5%	+11
親会社株主に帰属 する四半期純利益	13	247	+234	+1,770.2%	+10
為替レート 1米ドル=	131.25円	139.63円	+8.38円	-	-

5 ページ、決算サマリーです。

受注につきましては 1,383 億円と、為替影響を除くとほぼ前年並みです。売上につきましては 1,186 億円、為替影響を除いても対前年でプラス 218 億円、23.2%の大幅増収となりました。

昨年の第 1 四半期は COVID-19 による受注減少や部品ひっ迫の影響を受けて、実質的な売上の底であった期でした。そこから徐々にですが、調達環境等が改善したこともあり、売上が立ち上がってきたこの第 1 四半期は、対前年で極めて高い伸長率となっています。

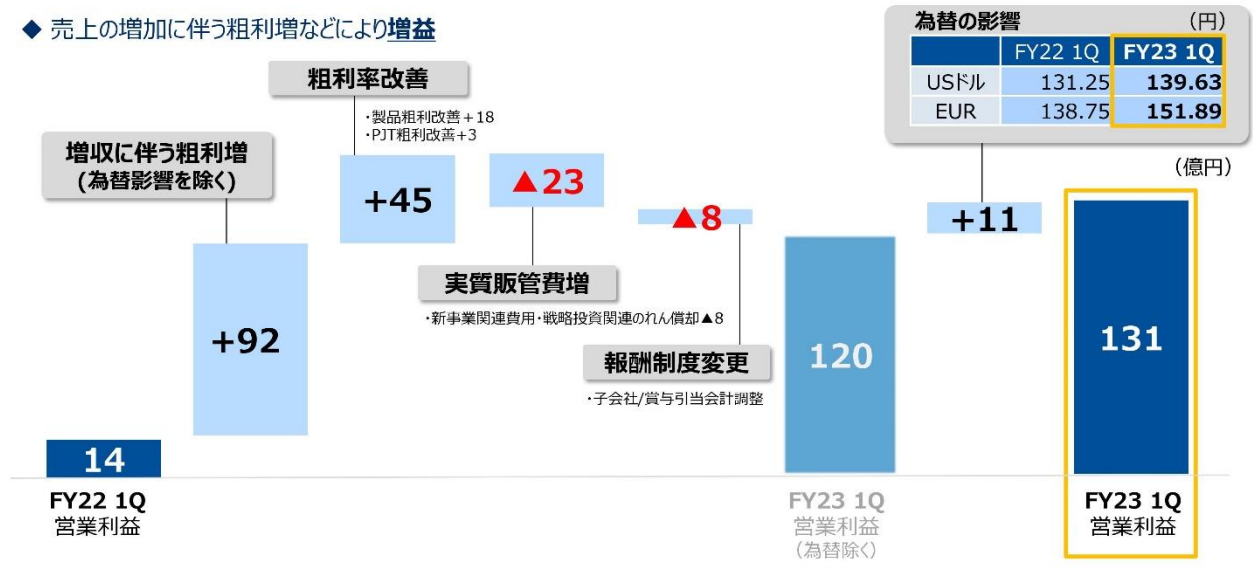
営業利益につきましては、対前年プラス 117 億円の 131 億円、当期純利益につきましては、営業利益の改善に加えて、大型の政策保有株式の売却益 165 億円の計上があったことから、対前年でプラス 234 億円の 247 億円となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

営業利益分析（前年同期比）

◆ 売上の増加に伴う粗利増などにより増益



YOKOGAWA ◆ Co-innovating tomorrow™

| August 8, 2023 |
© Yokogawa Electric Corporation

6

6 ページでは営業利益の増減分析をご説明いたします。

昨年第1四半期の14億円から、為替影響を除いても106億円の増益となっています。増収に伴う粗利増92億円に加えて、粗利率の改善45億円が大きく寄与しています。

粗利率につきましては、製品粗利の改善が18億円となっていますが、こちらは豊富な受注残を消化するために生産稼働率を引き上げていることに伴い、原価性の固定費率が低下しており、この影響が大きく出ています。

プロジェクト粗利につきましては、この第1四半期において工事損失引当金の計上が少なかったこともあり、若干改善いたしました。

続いて、販管費です。別枠で表示している報酬制度変更を除き、実質的な販管費の増加は23億円となっています。増加要因は、受注活動の拡大に伴い前年に段階的に活動費を強化した影響、また前年に実施した買収に伴うのれん償却費の増加等です。先ほど申し上げましたとおり、昨年同期を通じて増加していったところですので、足元でベースの費用が増えているものではないことを申し添えさせていただきます。

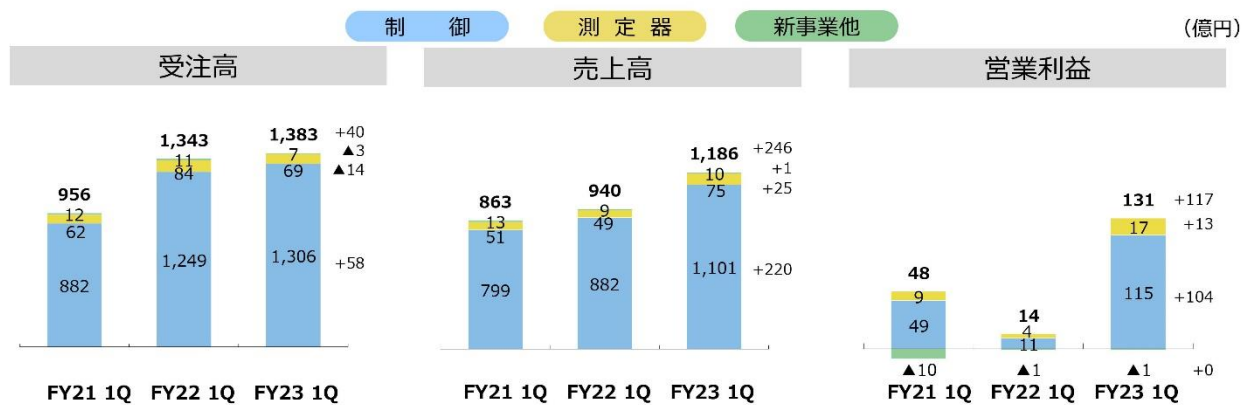
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

セグメント別 受注・売上・営業利益

- ◆制御事業 : 受注は増加。売上も長らく続いたCOVID-19の影響からの回復などにより増加
(除・為替影響: 受注+24億円 +2.0%、売上+193億円 +21.9%)
営業利益は、売上の増加に伴う粗利増などにより増益 (除・為替影響: +95億円)
- ◆測定器事業 : 売上は、前年同期の上海ロックダウンの反動などにより増加。営業利益は、売上の増加に伴う粗利増などにより増益
- ◆新事業他 : 前年並み



YOKOGAWA Co-innovating tomorrow™

| August 8, 2023 |
© Yokogawa Electric Corporation

7

続きまして7ページ、セグメント別の受注・売上・営業利益です。

まず、青色の制御です。受注につきましては対前年プラス58億円、為替影響を除くと2%の伸長。売上は対前年プラス220億円、為替影響を除いても21.9%の高い伸長となっています。営業利益につきましては104億円の増益となりました。売上、営業利益伸長の要因につきましては、先ほど全社の状況でご説明した内容と重複いたしますので、割愛させていただきます。

続いて、黄色の測定器です。受注は対前年マイナス14億円、為替影響を除くとマイナス19.1%の減少となっています。こちらは昨年上期が、受注トレンドとして極めて高い水準であったことによる反動となっています。昨年同期より、投資一巡などで受注は落ち着いており、この調整局面が続いているところです。昨年の下期と比較すると、受注レベルは大きく変化しているものではございません。売上につきましては対前年プラス25億円、為替影響を除いても47.9%の高い伸長となっています。測定器におきましては、設計変更等の対応に加えて部品調達環境が徐々に改善したことで、生産が回復してきていることもございますが、それに加えて昨年同期に上海ロックダウンの影響で売上が押し下げられていた反動も含めて、この高い伸長率となっています。

最後に緑色の新事業他でございますが、こちらは昨年から大きな変動はございません。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

制御地域別 受注・売上高

◆受注は、インド、東南アジア、欧州、北米が好調

◆受注：+24億円、+2.0%（除・為替影響） 売上：+193億円、+21.9%（除・為替影響）

（億円）

受注高	FY22 1Q	FY23 1Q	前年同期比 (B-A)	売上高	FY22 1Q	FY23 1Q	前年同期比 (B-A)
日本	339	287	▲52	日本	236	262	+26
アジア	452	495	+43	アジア	331	395	+64
（東南アジア・ 極東）	(169)	(212)	(+43)	（東南アジア・ 極東）	(150)	(160)	(+10)
（中国）	(229)	(189)	(▲40)	（中国）	(146)	(183)	(+37)
（インド）	(54)	(94)	(+41)	（インド）	(35)	(52)	(+17)
欧州・CIS	94	129	+35	欧州・CIS	98	115	+17
中東・アフリカ	214	217	+3	中東・アフリカ	104	158	+55
北米	91	120	+28	北米	86	119	+33
中南米	58	58	+0	中南米	27	53	+26
海外小計	909	1,019	+110	海外小計	646	839	+193
合計	1,249	1,306	+58	合計	882	1,101	+220
為替レート 1米ドル=	131.25円	139.63円	+8.38円	為替レート 1米ドル=	131.25円	139.63円	+8.38円

YOKOGAWA ◆ Co-innovating tomorrow™

| August 8, 2023 |
© Yokogawa Electric Corporation

8

続きまして 8 ページ、制御地域別の受注・売上高です。

左側の受注について、好調な地域につきましては冒頭に記載していますが、特に高い伸長率となっているのがインドです。基礎需要の継続的な拡大が見込まれるマーケットということで、石油価格、素材などの投資が引き続き活発です。ここに今価格が安いロシア産原油の輸入拡大などで、さらに投資の追い風になっている状況です。また北米、東南アジアなども高い伸長となっています。

一方、今回マイナス伸長となっている中国、日本は、いずれも販売価格の値上げのタイミングが影響しているものと考えています。日本については、この4月より再度値上げを行っており、その関係で3月までに駆け込みの発注がございましたので、足元は減少しています。また中国については、昨年の7月に値上げを実施しており、昨年の第1四半期が駆け込み発注により受注が押し上げられていたため、その反動で当第1四半期は対前年でマイナスとご理解いただければと思います。

サポート

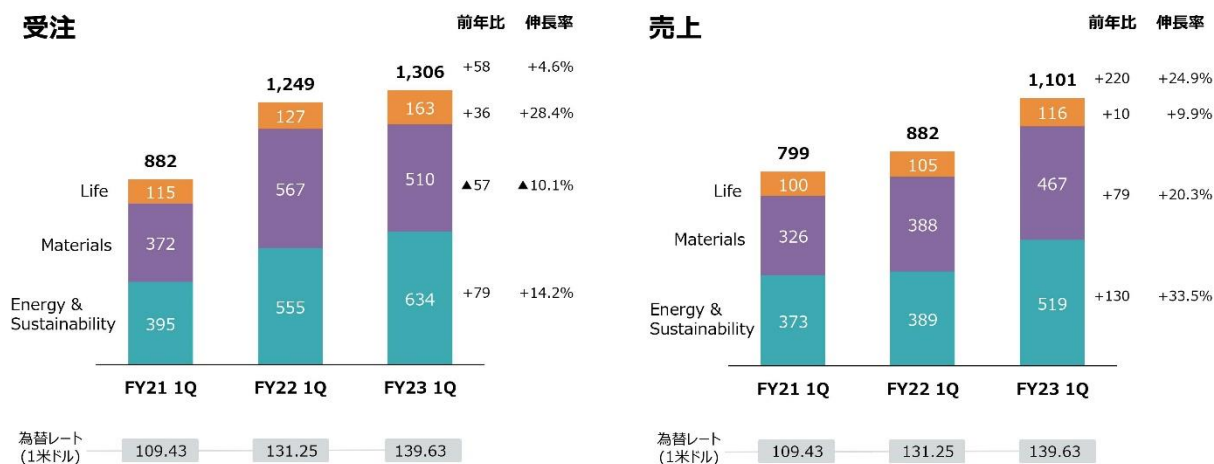
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

 **SCRIPTS**
Asia's Meetings, Globally

制御サブセグメント別 受注・売上高

◆ 受注は、Energy & Sustainability、Lifeは好調

(億円)



YOKOGAWA Co-innovating tomorrow™

| August 8, 2023 |
© Yokogawa Electric Corporation

9

続きまして9ページは制御サブセグメント別の受注・売上高を示しています。

左側の受注のグラフですが、一番下の青緑の Energy & Sustainability 事業は、対前年プラス79億円、為替影響を除くと10.6%の伸長となっています。業種別では大口プロジェクトの計上などもあり、Downstream が為替影響を除いて41%の伸長と、対前年で高い伸びとなっています。

紫色の Materials 事業は、対前年マイナス57億円、為替影響を除くとマイナス11.9%の減少となっています。化学業種向けが為替影響を除くと6%の減少となったほか、鋼材、電池業種向けなども減少しています。電子部品の需給調整や、それに伴う樹脂、素材産業の投資抑制等が影響していますが、それに加えて昨年第1四半期の実績にコロナからのリカバリー需要が一気に入り、極めて高い水準であった反動も含まれており、この減少幅となっています。

最後にオレンジ色の Life 事業ですが、こちらは対前年プラス36億円、為替影響を除くと25.5%の高い伸長となっています。食品、医薬品、水、いずれも堅調です。

右側の売上につきましては、受注に遅れて数字に表れてきているものでございますので、個別のご説明は割愛させていただきます。

サポート

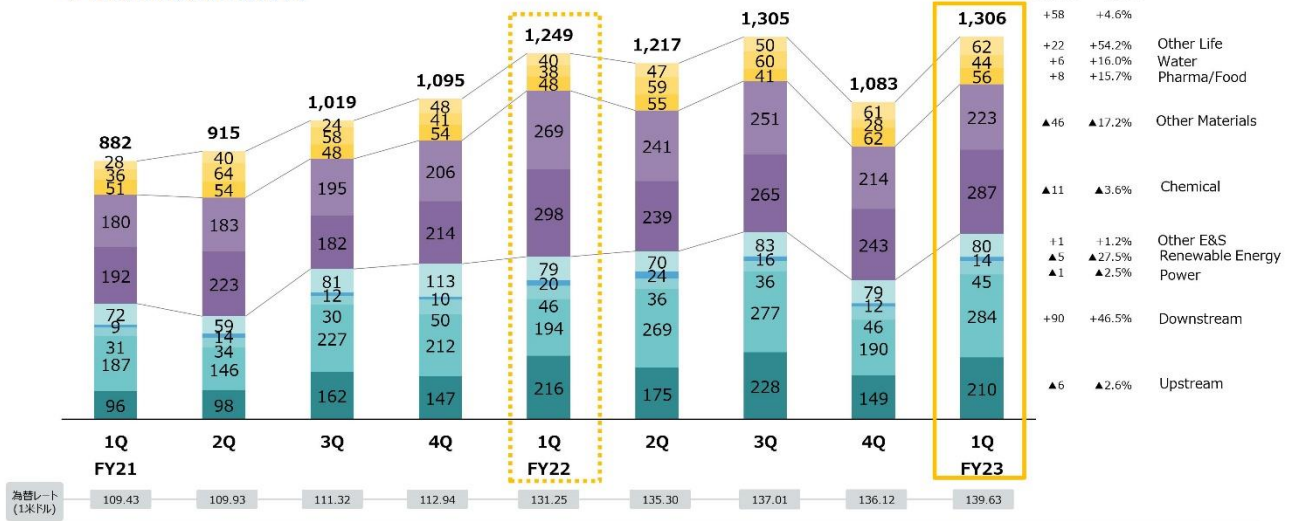
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

制御業種別 受注

(億円)

◆ Downstreamが好調



YOKOGAWA Co-innovating tomorrow™

| August 8, 2023 | 10
© Yokogawa Electric Corporation

続きまして 10 ページ、こちらは従来から開示しております制御業種別のトレンドです。これまで Others としてまとめていた業種を今回より各サブセグメント別の Others という形で分解しています。為替込みとはなりますが、こちらで四半期ごとのトレンドをご確認いただくことが可能です。

若干補足させていただきますと、先ほどご説明したとおり、Energy & Sustainability 事業は対前年でプラス 10.6%と高い伸長になっておりますが、これは大口の計上タイミングの影響を大きく受けており、実態のビジネス状況では、昨年第 4 四半期と均して見ていただくのが、実態を表していると考えています。

また紫色の Materials セグメントですが、先ほど申し上げましたとおり、昨年の第 1 四半期がかなり高水準だったことが、こちらで確認いただけたと思います。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



FY23業績予想（修正なし）

- ◆受注は、世界経済が低成長となることを見込まれていることや、COVID-19後に再開された大口受注案件に一巡感が出ていること、素材産業における投資が減速する見込みであること等により減少を予想
- ◆売上・営業利益は、半導体等を含む生産部品及びプロジェクト調達品の調達難が継続していることから限定的な伸長と予想

	FY22(A)	FY23予想(B)	前年比 (B-A)	伸長率 (B/A-1)	(億円)
受注高	5,184	4,900	▲284	▲5.5%	
売上高	4,565	4,700	+135	+3.0%	
営業利益	444	480	+36	+8.1%	
ROS(%)	9.7%	10.2%	+0.5pt	—	
経常利益	486	490	+4	+0.8%	
税引前利益	498	655	+157	+31.5%	
法人税等	109	215	+106	+97.6%	
親会社株主に帰属 する当期純利益	389	440	+51	+13.1%	
EPS(円)	145.81	164.84 [※]	+19.03	—	
為替レート 1米ドル=	136.12円	130.00円	▲6.12円	—	

■変動要因

- ・インフレ、金融引き締めによるマクロ経済減速や金融環境悪化
- ・半導体等を含む生産部品およびプロジェクト調達品の調達環境の変化
- ・部材価格、エネルギー価格、人件費等の上昇
- ・地政学リスク増大とサプライチェーンへの影響増大

YOKOGAWA ◆ Co-Innovating tomorrow™

※当社は自己株式の取得について決議しました。
FY23予想におけるEPS(円)については、当該自己株式の取得の影響を考慮していません。
したがって、今後の自己株式取得の状況により、変動する可能性があります。

[August 8, 2023]
© Yokogawa Electric Corporation 11

続いて 11 ページ以降でございしますが、こちらは業績予想に関するスライドが続いています。

為替前提、予想数値、セグメント別とも、今回は一切修正しておりませんので、ご説明については割愛させていただきます。

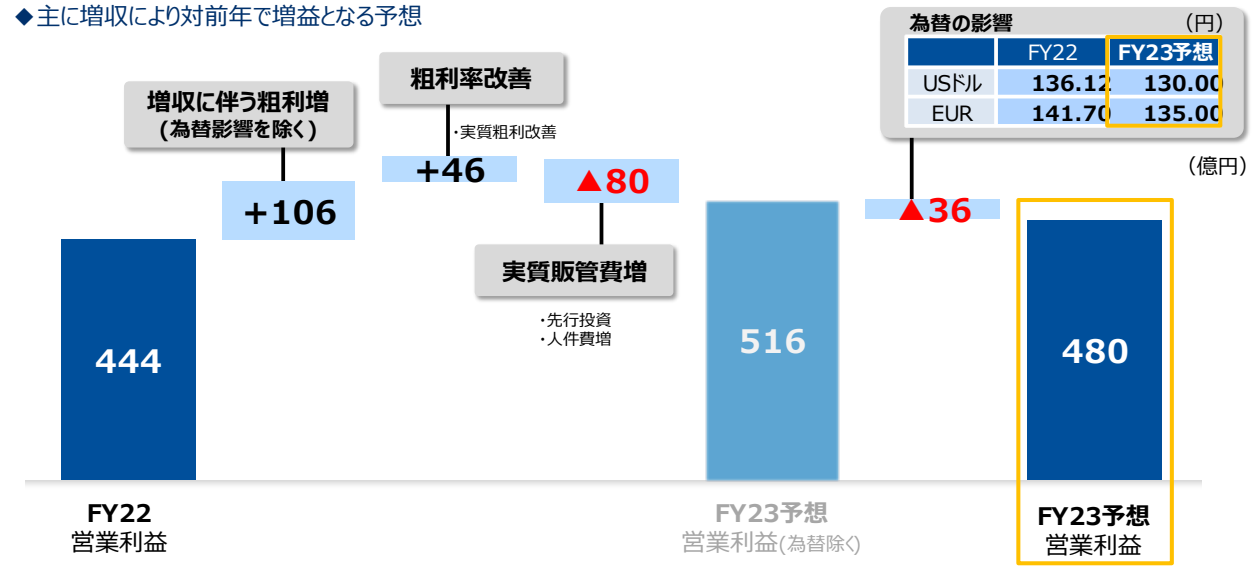
私からの説明は以上です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

営業利益分析 予想（修正なし）

◆主に増収により対前年で増益となる予想

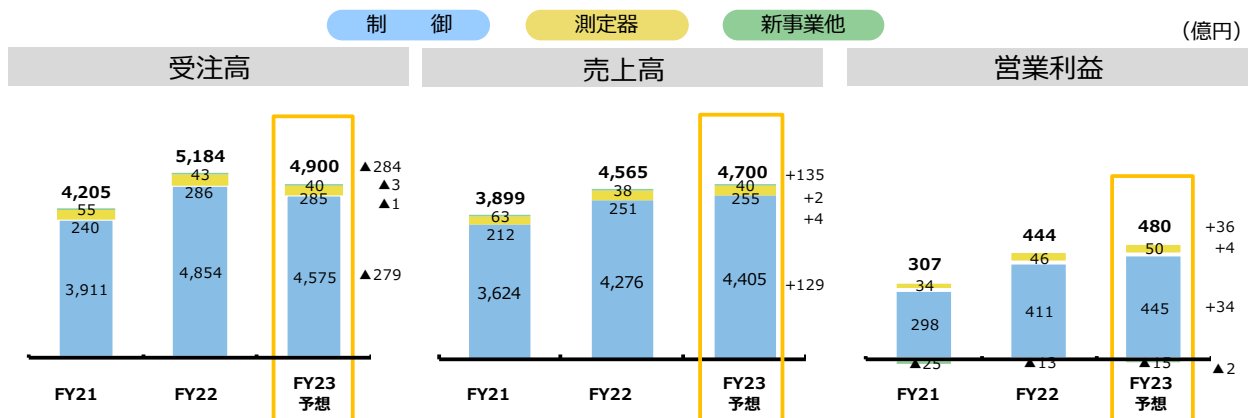


YOKOGAWA ◆ Co-Innovating tomorrow™

※現時点で決定していない新規M&Aによる影響は予想に含みません。

| August 8, 2023 |
© Yokogawa Electric Corporation 12

セグメント別 受注・売上・営業利益 予想（修正なし）



新事業他 : FY21の数字は従来の「航機その他事業」の実績を表示しています

YOKOGAWA ◆ Co-Innovating tomorrow™

| August 8, 2023 |
© Yokogawa Electric Corporation 13

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



制御地域別 受注・売上高 予想（修正なし）

(億円)

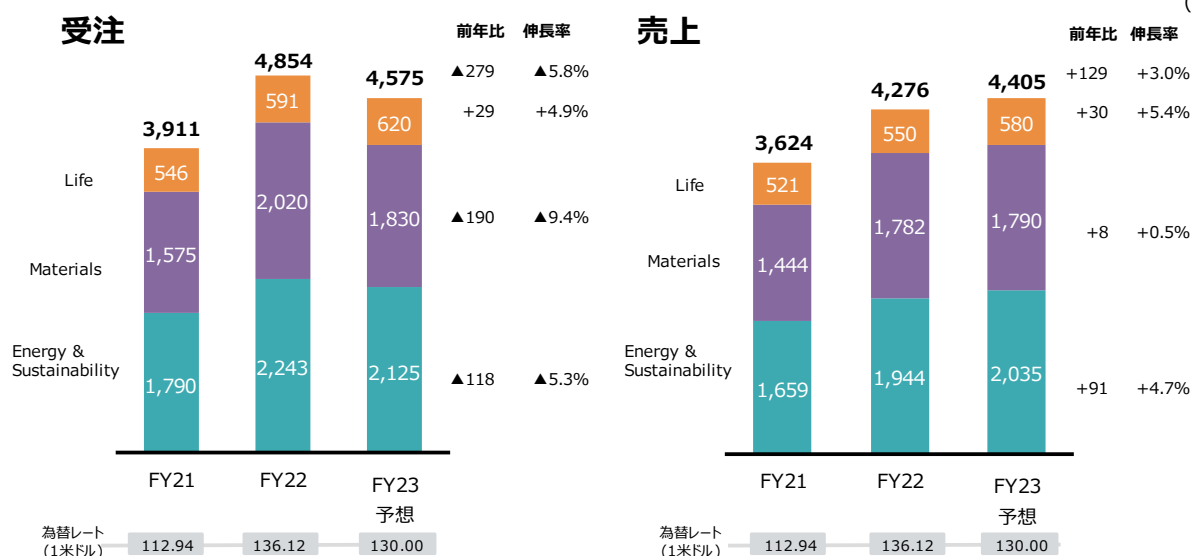
受注高	FY22 (A)	FY23 (B)	前年同期比 (B-A)	売上高	FY22 (A)	FY23 (B)	前年同期比 (B-A)
日本	1,340	1,250	▲90	日本	1,160	1,220	+60
アジア	1,680	1,605	▲75	アジア	1,538	1,536	▲2
（東南アジア・極東）	(710)	(695)	(▲15)	（東南アジア・極東）	(685)	(685)	(+0)
（中国）	(761)	(720)	(▲41)	（中国）	(668)	(670)	(+2)
（インド）	(209)	(190)	(▲19)	（インド）	(185)	(180)	(▲5)
欧州・CIS	464	420	▲44	欧州・CIS	424	430	+6
中東・アフリカ	714	670	▲44	中東・アフリカ	599	640	+41
北米	473	470	▲3	北米	407	430	+23
中南米	183	160	▲23	中南米	148	150	+2
海外小計	3,514	3,325	▲189	海外小計	3,116	3,185	+69
合計	4,854	4,575	▲279	合計	4,276	4,405	+129
為替レート 1米ドル=	136.12円	130.00円	-6.12円	為替レート 1米ドル=	136.12円	130.00円	-6.12円

YOKOGAWA ◆ Co-Innovating tomorrow™

| August 8, 2023 |
© Yokogawa Electric Corporation 14

制御サブセグメント別 受注・売上高 予想（修正なし）

(億円)



YOKOGAWA ◆ Co-Innovating tomorrow™

| August 8, 2023 |
© Yokogawa Electric Corporation 15

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

質疑応答

[Q]：粗利率改善プラス 45 億円の内訳として、製品粗利改善 18 億円、PJT 粗利改善 3 億円と記載がありますが、残りの改善要因 24 億円の内訳についてご解説をお願いします。また、第 2 四半期以降の持続性についても教えてください。

[A]：粗利率改善の内訳としては、昨年と同様に製品粗利改善は原価サイドの改善が主な内容で、値上げ施策による効果は含めていません。値上げ施策による効果は、粗利率改善に 10 億円強、増収に伴う粗利増に 10 億円弱、合わせて 20 億円程度です。その他の粗利率改善の項目としては、大きい金額ではございませんが、生産性向上施策等の効果がでています。

今後の持続性については、昨年第 1 四半期は例年に比べて粗利率がかなり悪化しており、今期の粗利率改善プラス 45 億はその水準からの改善幅のため、今後は徐々に縮小していくと考えています。今期の粗利率が悪化するということではなく、昨年の粗利率は期末にむけて徐々に改善したため、改善幅については縮小していくということでございます。

また、PJT 粗利改善について、今期は工事損失引当金の計上が少なかったと申し上げましたが、今後、工事損失を計上してでも戦略的に取っていきたいプロジェクトが発生する可能性がございますので、そのタイミングによっては対前年でマイナス要因になるとご理解いただければと思います。

[Q]：値上げ施策による効果について、今期計画では粗利率改善に 30 億円、増収に伴う粗利増に含む分も合わせると約 50 億円ということでしたが、第 1 四半期の結果を踏まえると、計画上振れ要因として期待しているのか、それとも計画通りなのか、ご解説をお願いします。

[A]：現状、年間では当初計画どおりと見ています。昨年第 1 四半期は値上げ効果はほぼ出ていませんので、昨年に対する改善幅が大きくなっていますが、昨年は期末に向けて徐々に値上げ効果が出ているため、今後値上げ効果に対する改善幅は縮小していくと考えています。

[Q]：3 カ月前と比べて事業環境や受注環境に変化があるのか確認させてください。今期は、大口案件の一巡感や、化学業界向け需要などマクロの不透明感から、昨年から受注は減少する見通しを示されていましたが、昨年第 4 四半期の受注一服から一転して、第 1 四半期は四半期ベースで過去

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



最高水準の受注となっており、懸念されていたほど悪くないように見えます。事業環境が3カ月前と比べて変化があったのか教えてください。

[A]：Energy & Sustainability 事業に関しては、COVID-19 後に再開された大口受注案件に一巡感が出ているという基本的な捉え方は変わっていません。第1四半期は、大口の期ずれの影響もあると考えていただければと思います。今後の大口については、エネルギー価格が安定していることもあり、マーケット環境としては決して悪くない状況のため、パイプラインとしてはございますが、今期に受注できる案件はかなり少ないと見ています。しかし小口につきましては、下支えとしてしっかり案件があると実感しています。

一方、Materials 事業に関しては、年初計画でも上期は厳しいと申し上げておりましたとおり、投資回復までにはもう少し時間がかかると見ています。実態として Energy & Sustainability 事業と Materials 事業の状況との相殺になると見ているのが今の状況です。また、追加的なリスクとして、中国経済の減速は広い業種に影響を及ぼすリスクとして考えています。しかし、これはまだ顕在化しておらず、計画を修正するような状況ではございません。

[Q]：第1四半期の受注・売上・営業利益について、社内計画に対してどういった水準なのか、コメントをいただけますでしょうか。

[A]：受注・売上につきましては、計画に対し若干の上振れといったところです。一方、粗利率に関しては若干未達、販管費はほぼ計画どおりで、結果として営業利益は若干の超過でした。全体的に、当社としてはサプライズのある超過ではございませんでした。

[Q]：第1四半期の結果を踏まえると、計画から上振れる要素があるように見えますが、今回通期の計画を修正されなかった背景を教えてください。また、受注の強さは今後も継続するののかも教えてください。

[A]：業績予想を修正しなかった理由を端的に申し上げますと、まだ年間の状況を見通せるような段階ではないということです。3カ月しか経っていない状況に加え、先ほど申し上げましたとおり、中国経済の減速リスクなどもある中、今回はあえて見直さないかたちにしています。

仮にリスクが顕在化しなかった場合でも、第1四半期の受注は社内計画に対してはそれほど大きな超過ではなかったこと、また数字としてかなり堅調だった Energy & Sustainability 事業の大口プ

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



プロジェクトは売上までに時間のかかるものあり、必ずしも当期への寄与は大きくないということから、今期計画に対しての上積み要因として見込めるような状況ではないと思っています。

一方、生産は想定より安定的に稼働できているため、積み上がっている受注残の消化により、売上は今期計画から若干の上積み要素はあるかもしれません。しかし、粗利率改善については計画に対し若干未達であること、また、今後戦略的に受注を取りに行くことで工事損失引当金の計上も考えられることから、計画は修正せず、いったん据え置きが適当だろうと判断しました。

[Q]：大口プロジェクトの内容・規模感を教えてください。また、小口プロジェクトについて、説明会資料 22 ページを見ると、第 1 四半期の実績は前年第 4 四半期と比較してほぼ横ばいの水準となっていますが、今後の見通しについても教えてください。

[A]：大口プロジェクトは、Energy & Sustainability 事業の比率が高くなっています。小口プロジェクトについては、昨年第 1 四半期からこの足元まで、為替影響を除いてぶれ幅が 20 億円ない程度で推移しており、今後も底堅いだろうと見ています。エネルギー価格の安定、またロシア・ウクライナ問題の長期化でエネルギーの生産地が変わったことにより、お客様が稼働率を高めていることから、OPEX を支える環境としては堅調だと考えています。

[Q]：説明会資料 22 ページ、制御ビジネス金額別の受注推移について、OPEX が受注増加の下支えをしているというお話がありましたが、このグラフを見るとほぼ横ばいで推移していることから、コメントとのギャップを感じています。OPEX が今後増えていくという手応えを感じていらっしゃるのでしょうか。また OPEX についての具体的な施策がありましたら教えてください。

[A]：小口プロジェクトについて、昨年第 1 四半期から横ばいで、伸びていないという印象になれるかと思います。OPEX に関して、COVID-19 により緊急性のないものはお客様が手控えられていた影響が、FY20 から FY22 の前半頃まで入っています。そのようなものを除くと、トレンドとしては伸ばしてきたというのが、われわれとしての実感です。

個別の施策については、多くの施策を実行している中で、一つ一つを申し上げることは難しいところですが、例えばサービス契約などについても地道に活動を続けています。また、業種のすそ野の拡大についても、ヘッドクォーター側から海外販売拠点側へきちんとノミネートした上で実施しています。各施策に対する影響を定量的にお話しすることは難しいですが、一つ一つ着実に取り組んでいます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



[Q]：粗利について、社内計画よりも若干未達というお話でしたが、もう少し詳細をご教示いただけますでしょうか。

[A]：具体的にどの項目で大きく未達というわけではございません。プロダクトとプロジェクトという切り口で申し上げますと、プロジェクト側でももう少し利益を出していきたかったというところがございます。しかし、プロジェクトに関しては、3カ月だけを切り取ってみると、どの案件がどのタイミングで売り上がるかで粗利率はかなりぶれますので、必ずしも特別な要因があって社内計画未達とは捉えていません。結果として、当社が期待していた粗利率には届かなかったというところがございます。

[Q]：粗利率改善には調達コストも含まれていると思いますが、こちらは昨年同期に比べてどういった状況なのでしょう。

[A]：調達コストは製品粗利改善プラス18億円に含まれていますが、昨年第1四半期では完全には悪化し切っていなかったため、対前年という意味では若干のマイナス要素として含まれています。内容としては、主に市場流通品の購入コストや通常の購入品の定価アップが、数億程度の悪化要因として含まれています。

しかし、昨年の調達コストは期末に向かって徐々に悪化していったこと、また市場流通品に関しては入手の容易性でも価格という意味でもかなり緩んできていますので、昨年第4四半期と比較すると改善している状況でございます。

[Q]：売上が前年比で増加している理由として、部品調達の改善が主な要因と考えてよろしいでしょうか。

[A]：プロダクト製品の部品だけではなく、プロジェクトの転売品等に関しても、以前よりは納期遅れになるリスクがなくなった状況ですが、大きな影響額ではございません。

[Q]：第1四半期に大口プロジェクトを受注したということですが、地域や業種を教えてくださいましてでしょうか。

[A]：Energy & Sustainability 事業は、対前年同期、対前年第4四半期でも好調でした。地域としては分散しており、東南アジア、中国、インド、アメリカ等々でも案件を獲得しています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



[Q]： Energy & Sustainability 事業の受注について、前年比で約 80 億円増と大幅に増加していますが、これは例えば 1 件で 30 億円から 40 億円レベルの大口プロジェクトを受注したわけではなく、数億円レベルの大口プロジェクト(3 億円以上)を複数の地域で受注したと考えればよろしいでしょうか。

[A]：おっしゃる通りです。Energy & Sustainability 事業の大口プロジェクトについては、計画レート 130 円換算で申し上げますと、対前年で 60 億円強増加しています。主に Downstream 業種で増えています。

[了]

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

